資料５－３

実践プラン３　テーマ：リラクゼーション活動を通した障がい児の地域参加

＜エピソード＞
　今年度子ども会を担当することになった A さん。どんな企画をすれば地域の子どもたちがよろこんで参加してくれるのか毎日頭を悩ませています。今朝も見守り隊の活動をしながら他のお母さんたちに相談していたのですが、そんな時前を支援学校の通学バスが通り過ぎて行きました。
A さん「そういえばうちの子と同級生だった子、支援学校に行ってからはあまり見かけないな…」
B さん「遠くの支援学校に通ってるからね。お母さんともおしゃべりする機会減ったような気がする」
C さん「障がいのある子ってよく分からないから、見かけても声かけづらいよね」
そんな会話をしながら A さんは（いろいろな子どもがいるよね…）と考え、ある一つの企画を思い立ちます。

ここがねらい　障がいのある人と協働して新しい活動を始めること

○概要
　子どもの「水遊び会」をきっかけとして、地域住民に障がいや障がい児（者）についての理解を促し、「足湯会」「スヌーズレン会※」等のリラクゼーション活動の開催を通して障がい児（者）の地域参加を図る。
（参 加 者：地域住民
　実施場所：学校、公民館等社会教育施設）

＊本実践プランでは光、音、におい、振動、温度、触覚など、さまざまな感覚への働きかけを通したリラクゼーション活動をおこなうことを、スヌーズレンとしている。

社会教育の役割

気づきを促す → 学ぶ機会をつくる → 情報提供をする → 始めようという意識の醸成を図る

取組内容

①水遊び会をきっかけにして…
　自治会（子ども会）が地域に呼びかけ子どもたちを対象に学校を借りて**水遊び会**を実施します。―
<ここがポイント>
まずは、障がい児も地域の子どもも一緒に楽しめるゆるやかな企画をしましょう

つぎへの工夫！　水遊び会参加の大人に対してチラシやPR団扇の配布を行い、物づくり講座へ誘導

②障がいのある人と一緒に楽しめること考えてみませんか
　公民館において、足湯やスヌーズレンなどのリラクゼーション活動を紹介する**講座を開催**。そこで活用できる「地域の素材を使った入浴剤作り」や「アロマセラピー」も同時に体験します。

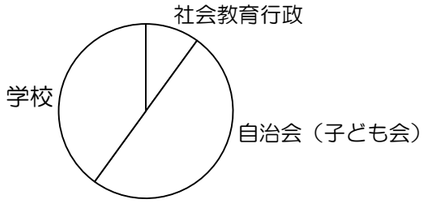
つぎへの工夫！　講座には障がい者と関わりのある人にも参加してもらって、次の情報提供に活かしましょう

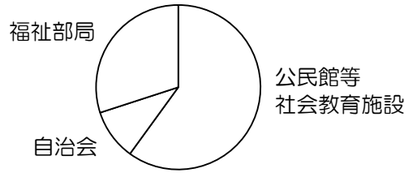
③障がいのある人と一緒にできることを知ろう
　地域の障がい児（者）施設や支援学校（学級）が取り組んでいる作業（学習）について**公民館**等で**情報提供**の機会を持つ

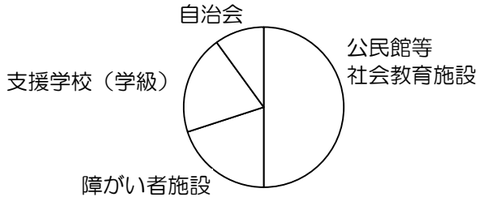
つぎへの工夫！　障がい者にも取り組める作業や活動がたくさんあることを紹介

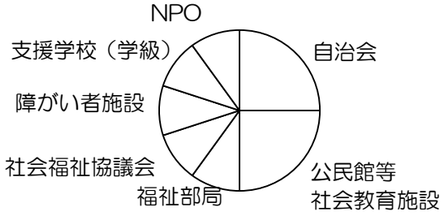
④みんなでやってみましょう！
　自治会が**講座参加者をまきこんで、『手作り入浴剤の足湯会』『手作り装置によるスヌーズレン会』**などを開催
<ここがポイント>
障がいのある人も取り組める範囲で、一緒に準備を進めましょう

取組みに関わる団体と分担のイメージ









Cさんの気持ちの変化

○気づく
「地域には障がいのある子がたくさんいるんだなぁ」
「障がいのある子どもへの関わり方って難しいなぁ」

○学ぶ
「においや光、触感など、五感を使って味わう活動なら、障がいのある人たちにも気軽に楽しんでもらえるかもしれない」
「公民館の講座にも使えそうなものがいっぱいありそう」

○知る
「障がいのある人もできることいっぱいあるんだ…」
「だったら一緒にやった方がいいから関係者にいろいろ聞いてみよう」

○始める
「足湯会、スヌーズレン会で一緒にリラックスしましょう」
「入浴剤作りに必要なハーブを一緒に採集、加工しませんか？」

関心度　高 ↑ 低